

研究紀要投稿細則

(平成13年5月23日)
最近改正 令和4年4月1日

I 総則

- 1 投稿者（筆頭執筆者）は原則として下記のものに限る。
 - ① 専任教員（特任教員、期限付教員、助教・期限付助教、期限付助手を含む）
 - ② 非常勤講師（本学の教育歴勤続5年以上）
 - ③ 退職専任教員
 - ④ 博士課程在学者（指導教員の許可および連名論文の条件）
- 2 投稿論文は他の出版物に未発表のものに限る。
- 3 投稿論文は日本語・英語いずれでもよい。
- 4 投稿論文は、下記の種別によって3区分される。
 - ① 研究論文：専門的ないし学際的論文
 - ② 研究ノート：研究論文に準じる論文。原稿は7ページを上限とする。
 - ③ 調査報告：専門的ないし学際的調査・実験報告。担当科目の教育実践報告或いは資料紹介等を含む。原稿は7ページを上限とする。
- 5 投稿論文はその内容によって人文社会科学系列と自然科学系列とに区別する。
- 6 投稿者は、研究紀要の編集著作権が学校法人渡辺学園に帰属することを許諾したものとする。
- 7 研究紀要に掲載された個々の論文の著作権は執筆者に帰属する。ただし、複製権、公衆送信権については、その行使を許諾したものとする。
- 8 投稿者は電子媒体での公開・公表を許諾したものとする。

II 投稿の規約

- 1 原稿の提出期限は9月末日正午とし、休日の場合はその前日の正午とする。
- 2 原稿は各所属学科の紀要編集委員に提出した日をもって受領日とする。
- 3 提出期限後最初の委員会で投稿原稿の形式を審査し、形式に不備がある投稿者には訂正・再提出を求める。全投稿原稿の形式が整ったのち、原稿は委員長が委嘱する査読委員の査読或いは準査読委員の準査読（以下、準査読の名称は略す）に委ねられ、その査読結果をもとに委員会において原稿の受理・修正ないし改訂条件付き受理・不受理の3種に関して決定する。受理決定の執筆者には受理書を渡す。不受理決定者には判定内容を説明し原稿を返却する。修正ないし改訂条件付き受理決定の原稿については、修正ないし改訂されて再提出されれば、再度査読者に戻し、その判定報告を受けて委員会において再度審議し、受理の決定がなされた場合、執筆者に受理書を渡す。修正ないし改訂されて再査読される機会は1回とする。
- 4 研究論文1篇の長さは表題・著者名・図表・写真・引用文献・抄録、キーワードなどすべてを含め

て原則として刷り上り 10 ページ以内とする。研究ノートおよび調査報告 1 篇の長さは 7 ページを上限とする。

5 原稿には先の事項を記載した所定の送り状をつける。

- ① 提出年月日
- ② 氏名をローマ字表記する場合、姓・名の順とし、姓と名の間に半角カンマを入れる。姓・名どちらも最初の文字は大文字とし、そのあとを小文字でつづける。
- ③ 所属（内線番号）
- ④ 論文種別（研究論文、研究ノート、調査報告）
- ⑤ 論文系列（人文社会科学、自然科学）
- ⑥ 表題（同英語）英語の表題では各語の最初の文字は大文字とする。ただし、表題文中では前置詞・冠詞などは小文字とする。
- ⑦ 原稿枚数
- ⑧ 備考

III 執筆の規約

a 本文の書き方

- 1 原稿の第 1 枚目には表題（日本語）、表題（英語）、を必ず最初を書く。書き方は送り状の場合と同じとする。表題名（英語）の次に、日本語と英語の両方の抄録（要約と Abstract）を書き、その下に 3 から 5 のキーワードを日本語および英語で記載する。大題目にシリーズ番号をつけ、副題目をつける形式の時は、副題目を本表題とし、大題目およびシリーズ番号は脚注に記す。
- 2 投稿論文はその内容に適した形式とする。なるべく人文社会科学系列の場合は抄録・序論・本論・終論（結論・まとめ）・謝辞・文献の順に、また自然科学系列の場合は抄録・緒言・研究方法・研究結果・考察・まとめ・謝辞・文献の順に項目を分けて記載する。
- 3 日本語原稿は A 4 判フォーマットを用い、テンプレートを用いて明朝体で書き、現代かなづかいとし、漢字はなるべく常用漢字とする。一般に通用している物質名・術語などに対しては英語を用いないこと。（元素名・化合物名は原則として日本語で書く。）必要に応じてアルファベットで表記する。また、書き出しや改行は 1 字下げる。
- 4 英語原稿は A 4 判フォーマットを用い、テンプレートを用いて著す。書き出しや改行は慣行に従う。
- 5 投稿原則はできるだけ簡明とし、表図等もなるべく少なくすること。（同一事項は表または図のいずれか一方にする。）また図または表は本文中「つぎの表」「上の図」のような表わしかたを用いずに図 1、表 4 のごとく通し番号をつけ、文書中に挿入できない場合には、挿入位置を明示的に書くこと。ただし、表および図が一個のみの場合は単に表・図のごとく書いてもさしつかえない。写真・図表が著しく多数の場合は、実費は著者負担とする。
- 6 論文には 350 字以内の日本語抄録（要約）と 200 語以内の英語抄録（Abstract）をつける。2 つの抄録は本文の最初、すなわち著者名の後、キーワードの前に記載する。
- 7 数字はなるべくアラビア数字を用い、数量の単位は原則としてメートル法（CGS 単位）とし、略

記単位等は国際標準単位記号を用いる。

8 英文のイタリック体 (*Italic*) になる語には実線のアンダーラインを、ゴシック体 (**Goth1c**) になる語には波線のアンダーラインをつける。ただし、イタリック体やゴシック体で表示された文字には、実線や波線のアンダーラインをつける必要はない。

9 句読点・カッコには1画を与え、ハイフンは区画中に明瞭に書く。

10 論文中の引用文献番号は該当する人名または事項の肩に片カッコをつけて通し番号で小さく書く。文献は論文の最後に通し番号順に列記し、その原典を示す。引用文献については別掲のような表現を用いる。

(1) 外国語の場合、著者名については前記Ⅱ 5②を適用する。

(2) 外国語雑誌名(略記法による)および単行本名には前記Ⅱ 5⑤を適用するほか、イタリック体に指定することを表わすアンダーラインをつける。

(3) 巻数にはゴシック体に指定することを表す波線をつける。

(4) ページは算用数字で最初のページのみを記す。pは単行本の場合だけ使用し、雑誌の場合は用いない。

人文科学系列の単行本の場合は、最初と最後のページ数を pp で記す。

b 図および表の書き方

1 図は本文中に挿入するか挿入する位置を示し、電子媒体で提出する。図および表は1つずつ番号・表題を本文中に記入する。

2 図表は著者の原図から直接製版する。(図の書き方見本参照)

3 掲載時の図の大きさは座標軸の文字・記号を含めて縦19cm以下、横は4～6cmまたは10～14cmの2種類である。著者の希望する場合および本委員会が必要と認めた場合は図のトレースを専門家に依頼するが、その費用は著者負担とする。

4 カラー写真の場合は製版の実費は著者負担とする。

Ⅳ 校正

初校・再校は著者が行うものとするが、誤植の訂正にとどめ、大幅な文章・図表の訂正・内容の変更は原則としてできない。やむを得ず改変する場合はそれに要した費用は著者負担とする。

附 則

この細則は、平成 13 年 5 月 23 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 24 年 6 月 27 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この細則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

雑誌の例

中山健太郎：小児保健研究，22，184（1964）

J. Kaup：*Munch. Med. Wschr* 68，976（921）

単行本の例

有本邦太郎：栄養科学，光生館（東京），1973，p. 128

松木駿：肥満，臨床症状シリーズ7（上田英雄編），南江堂（東京），1979，p. 2

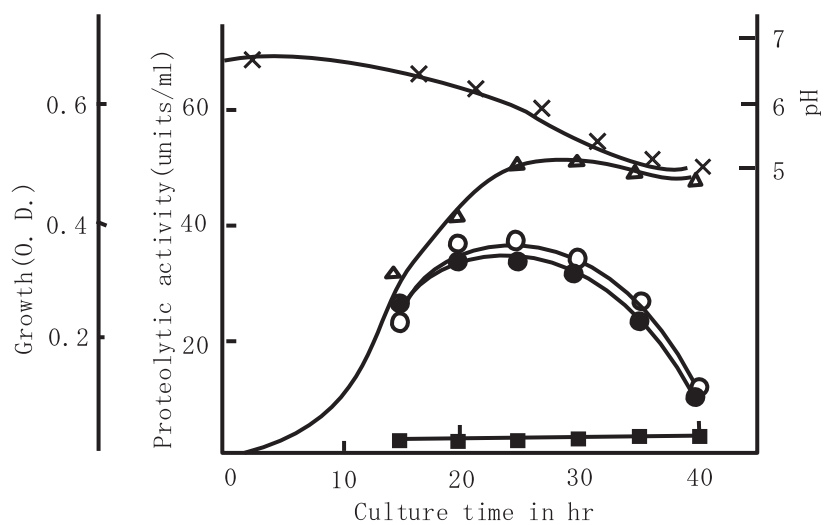
山根薫：幼児の姿としつけ，同文書院（東京），1975，pp. 56～65

F. A. Cotto and G. Wilkinson：*Advanced Inorganic Chemistry*，John-Wiley & Son，N.Y.，1962，p. 887

P. D. Smith：*Biochemistry of Viruses*，Biochemistry（H. B. Brown，ed.），Associated Scientific Publishers，Amsterdam，1969，pp. 17-218

注 雑誌名あるいは書名をくりかえし記載するとき通常用いられる“前掲，同上，ibid，idem，ebenda”などは，同一著者同一著書（雑誌）でページ数だけが異なる場合を除き，できるだけ使わないこと。

図の例



編集委員

- 委員長：(環境教育) 藤 森 文 啓
副委員長：(服装美術) 葛 原 亜 起 夫
委員：(児童教育) 石 田 淳 一
委員：(教育福祉) 大 橋 憲 広
委員：(看護) 太 田 美 帆
委員：(心理カウンセリング) 岡 島 義
委員：(造形表現) 岡 田 京 子
委員：(子ども支援) 小 櫃 智 子
委員：(管理栄養) 岸 昌 代
委員：(栄養) 澤 田 め ぐ み
委員：(英語コミュニケーション) 並 木 有 希
委員：(保育・児童) 平 野 順 子
委員：(リハビリテーション) 村 上 幸 士

東京家政大学研究紀要 第63集(1)

令和5年3月1日発行

発行所 東京家政大学
東京都板橋区加賀1-18-1
電話 (03)3961-5226(代表)

印刷所 光村印刷株式会社
東京都品川区大崎1-15-9
電話 (03)3492-1181(代表)